

氏名：佐藤 仁紀

所属専攻・職名：工学部 物理工学科 機械システム学コース 3 回生

派遣国：アメリカ合衆国

派遣先(研究機関名)：カリフォルニア大学デービス校

受入研究者(職・氏名)：Prof Janis Williamson, International English and Professional Programs Director

派遣期間：2012 年 8 月 9 日 ~ 2012 年 9 月 3 日(26 日間)

派遣先での研究テーマ：UC DAVIS EXTENSION 京都大学 UC 実習型・夏季短期留学プログラム

(-UC DAVIS EXTENSION- KYOTO UNIVERSITY ENGLISH FOR SCIENCE AND TECHNOLOGY INTERDISCIPLINARY RESEARCH PROGRAM)

【研究実施概要】

上記の期間、京都大学と UC DAVIS EXTENSION の共同企画である実習型夏季短期留学プログラムに参加した。このプログラムは大きく分けて発音、ディスカッション、レクチャー、プレゼンテーションという四つのパートに分かれていた。

発音の授業では主に r や th などの基本的な英語の発音の基礎や、会話表現において省略されるなどの理由で特に聞き取りにくいフレーズを学んだ。

ディスカッションの授業では NASA の探査機 Curiosity や、原子力発電といった議論の余地のある話題を取り上げ、自分の考えを整理し、他の参加者と議論した。

レクチャーでは学外者を招いてのレクチャーが行われ、そのレクチャーについてのサマリーを作成した。レクチャーは三度行われ、テーマはそれぞれ Construction & Renewable Energy、Region Studies & Transportation、Welfare & City Government であった。レクチャーの前後には講師の研究内容等について予習をするプレレクチャー、レクチャーの復習をするポストレクチャーが行われ、理解の助けになった。

そして、今回のプログラムで最も重点が置かれたのがプレゼンテーションである。この授業ではプログラム参加者が 6 つのグループに分かれ、それぞれのテーマについて調査、議論、最終プレゼンテーションを行った。私のグループのテーマは Space Science であり、サイトビジットとして SpacEd、NASA Ames Research Center、Stanford University を訪れて専門家のレクチャーを受け、それに対して質疑応答をした。



【研究成果概要】

このプログラムの集大成は最終プレゼンテーションであった。上述のように私たちのグループは Space Science についての調査を行い、地球を出発してから宇宙に行く方法、宇宙においてもっと遠くへ、あるいは惑星に到達する方法、そして宇宙における研究、というように一つのストーリーのようにプレゼンテーションを展開した。このプレゼンテーションでは、サイトビジットで得られた情報をもとに、効果的なスライドの作り方を学ぶことができたし、

それまでの授業で得られた発音や、アイコンタクト等の能力も生かすことができた。

授業においても、日本とは違い積極的に発言、質問をすることができて日々自分の成長を実感することができた。また、特に英語能力における自分の課題も肌で感じることもできたのも今回の留学の成果であると思う。

【外国語のスキルアップ・コミュニケーション能力の向上，海外におけるネットワークづくり】

まず、ホームステイにおけるホストファミリーとの会話では日常会話能力の向上を実感できた。初めはホストファミリーが言っていることがほとんど理解できず、自分も言いたいことをうまく伝えることができなかったが、日が経つにつれて要領をつかむことができ、最後には冗談も言い合えるようになった。

また今回の留学で感じたことは、話し手が、自分が英語に堪能ではないと意識してくれている場合はうまく意思疎通できるが、そうでない場合はまだまだ意思疎通が難しいということである。例えば UC Davis で行われた京大生向けの授業では先生の言うことを難なく理解することができたが、飲食店での従業員との会話や、サイトビジットで訪れた Stanford University の教授の講義は断片的にしか理解することが出来なかった。しかし、このような課題を見つけることができたことも今回の留学の成果であり、日本に帰ってから更にもっと語学の習得に力を入れていきたいと思う。

【派遣の感想】

今回のプログラムは、自分にとって大変ためになるものだった。勿論英語での議論、プレゼンテーション能力は将来必ず活かすことができると思うし、ホームステイや観光等を通してアメリカの文化にも触れることができたのはいい経験だった。また、このプログラムの他の参加者からも大きな刺激を受けた。大きな向上心を持つ友人たちは、自分にとっての財産になると思う。

しかし、このプログラムには問題もあるように感じた。プログラム参加者が全員京大生ということで授業以外はどうしても日本語で会話してしまうというのは大変もったいなかった。

今回が二回目ということで、来年以降はもっと効果的な内容のプログラムにしてほしいと思います。